

# 平成 28 年度 学校保健統計（学校保健統計調査報告書）（広島県分）の概要について

## 1 調査の概要

- (1) 調査対象: 国立, 公立, 私立の幼稚園, 幼保連携型認定こども園, 小学校, 中学校, 中等教育学校, 高等学校の満 5 歳から 17 歳までの児童等の一部(抽出調査)※中学校には中等教育学校(前期課程)を含む  
 抽出率 発育状態: 全幼児, 児童及び生徒の 4.6% (14,463 人) } ※ 幼稚園, 幼保連携型認定こども園  
 健康状態: 全幼児, 児童及び生徒の 24.7% (78,133 人) } は 5 歳児のみ
- (2) 調査事項: 学校保健安全法による健康診断の結果に基づき, 児童等の発育状態(身長, 体重)及び健康状態(疾病・異常等の有無)を調査
- (3) 調査時期: 平成 28 年 4 月 1 日から 6 月 30 日の間に実施

## 2 調査結果の主な特徴

- (1) 発育状態調査  
 身長(平均値)は, 男女ともに全ての年齢において全国平均を下回る。  
 体重(平均値)は, 男女ともに全ての年齢において全国平均を同程度若しくは下回る。
- (2) 健康状態調査  
 中学校では, 「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合が最も高く, 幼稚園及び小学校では, 「むし歯(う歯)」の者の割合が最も高い。  
 「むし歯(う歯)」の者の割合は, 全ての年齢において全国値を下回る。

## 3 本年度調査の変更点

- (1) 調査対象: 幼保連携型認定こども園を追加
- (2) 調査事項: 座高, 寄生虫卵の有無の調査を廃止  
 脊柱・胸郭の疾病異常とあわせて四肢の状態を追加

## 4 調査結果の概要

- (1) 発育状態調査

### ア 身長

身長(平均値)は, 前年度より, 男子は 5 歳, 11 歳, 15 歳及び 17 歳で高く, 女子は 6 歳, 12 歳, 13 歳及び 14 歳で高くなっている。男子及び女子の全ての年齢において, 全国値を下回った。

親世代である 30 年前の昭和 61 年度調査と比較すると, 最も差がある年齢は, 男子では 12 歳で 2.6 cm, 女子では 10 歳及び 11 歳で 1.4 cm それぞれ高くなっている。(表 1)

表 1 年齢別 身長の平均値

(単位: cm)

区 分		男 子						女 子					
		平成28年度				昭和61年度		平成28年度				昭和61年度	
		A		B		A		B		A		B	
		広島県	前年度差	全国	全国差	広島県	A-B	広島県	前年度差	全国	全国差	広島県	A-B
幼稚園	5 歳	110.0	0.1	110.4	△ 0.4	110.1	△ 0.1	109.1	0.0	109.4	△ 0.3	109.6	△ 0.5
	小学校	6 歳	115.8	△ 0.3	116.5	△ 0.7	115.8	0.0	115.1	0.2	115.6	△ 0.5	114.5
	7	121.9	0.0	122.5	△ 0.6	121.4	0.5	120.9	△ 0.3	121.5	△ 0.6	120.9	0.0
	8	127.6	△ 0.1	128.1	△ 0.5	127.1	0.5	126.5	△ 0.2	127.2	△ 0.7	126.1	0.4
	9	133.0	△ 0.1	133.6	△ 0.6	132.1	0.9	132.6	△ 0.3	133.4	△ 0.8	131.9	0.7
	10	138.0	△ 0.3	138.8	△ 0.8	137.3	0.7	139.0	△ 0.5	140.2	△ 1.2	137.6	1.4
	11	144.7	0.3	145.2	△ 0.5	142.4	2.3	145.9	△ 0.3	146.8	△ 0.9	144.5	1.4
中学校	12 歳	151.9	△ 0.6	152.7	△ 0.8	149.3	2.6	151.3	0.2	151.9	△ 0.6	150.5	0.8
	13	158.8	△ 0.1	159.9	△ 1.1	157.1	1.7	154.3	0.1	154.8	△ 0.5	154.0	0.3
	14	164.3	△ 0.2	165.2	△ 0.9	163.5	0.8	156.0	0.2	156.5	△ 0.5	155.6	0.4
高等学校	15 歳	167.7	0.2	168.3	△ 0.6	167.0	0.7	156.7	0.0	157.1	△ 0.4	156.5	0.2
	16	169.1	△ 0.1	169.9	△ 0.8	169.5	△ 0.4	156.8	△ 0.4	157.5	△ 0.7	156.5	0.3
	17	170.0	0.2	170.7	△ 0.7	170.0	0.0	157.2	△ 0.1	157.8	△ 0.6	157.3	△ 0.1

## イ 体重

体重(平均値)は、前年度より、男子は5歳、8歳、9歳、10歳、11歳及び17歳で重く、女子は11歳及び14歳で重くなっている。男子及び女子の全ての年齢において、全国値と同程度若しくは下回った。

親世代である30年前の昭和61年度調査と比較すると、最も差がある年齢は、男子では11歳で2.3kg、女子では12歳で1.0kgそれぞれ重くなっている。(表2)

表2 年齢別 体重の平均値

(単位:kg)

区分		男 子						女 子					
		平成28年度				昭和61年度		平成28年度				昭和61年度	
		A		B		A		B		A		B	
		広島県	前年度差	全国	全国差	広島県	A-B	広島県	前年度差	全国	全国差	広島県	A-B
幼稚園	5歳	18.7	0.1	18.9	△ 0.2	18.8	△ 0.1	18.3	△ 0.1	18.5	△ 0.2	18.4	△ 0.1
小学校	6歳	21.0	△ 0.1	21.4	△ 0.4	20.8	0.2	20.7	△ 0.1	20.9	△ 0.2	20.2	0.5
	7	23.8	0.0	24.0	△ 0.2	23.4	0.4	23.0	△ 0.2	23.5	△ 0.5	22.8	0.2
	8	26.7	0.1	27.2	△ 0.5	26.2	0.5	25.8	△ 0.2	26.4	△ 0.6	25.7	0.1
	9	30.6	0.5	30.6	0.0	29.1	1.5	29.5	0.0	29.8	△ 0.3	28.9	0.6
	10	33.5	0.5	34.0	△ 0.5	32.8	0.7	33.4	△ 0.5	34.0	△ 0.6	32.7	0.7
中学校	12歳	42.6	△ 1.5	44.0	△ 1.4	41.2	1.4	43.2	△ 0.4	43.7	△ 0.5	42.2	1.0
	13	48.1	△ 1.3	48.8	△ 0.7	46.8	1.3	47.2	△ 0.1	47.2	0.0	46.7	0.5
	14	53.4	△ 0.6	53.9	△ 0.5	52.8	0.6	50.0	0.6	50.0	0.0	49.5	0.5
高等学校	15歳	57.4	△ 1.6	58.7	△ 1.3	57.3	0.1	50.5	△ 1.3	51.7	△ 1.2	51.1	△ 0.6
	16	59.2	△ 1.1	60.5	△ 1.3	59.6	△ 0.4	52.1	△ 0.1	52.6	△ 0.5	51.8	0.3
	17	62.0	0.6	62.5	△ 0.5	60.8	1.2	52.3	△ 0.5	52.9	△ 0.6	52.4	△ 0.1

## (2) 健康状態調査

### ア 疾病・異常の被患率等の順位

疾病・異常を被患率等別にみると、中学校及び高等学校では、「裸眼視力1.0未満の者」の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ。)の順となっている。

幼稚園及び小学校では、「むし歯(う歯)」の者の割合が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満の者」の順となっている。(表3)

表3 学校種別 疾病・異常の被患率等順位

(単位:%)

学校種	順位	疾病・異常等	割合	学校種	順位	疾病・異常等	割合
幼稚園	1	むし歯(う歯)	29.2	中学校	1	裸眼視力1.0未満の者	55.1
	2	裸眼視力1.0未満の者	23.8		2	むし歯(う歯)	33.0
	3	耳疾患	4.4		3	鼻・副鼻腔疾患	9.5
	3	鼻・副鼻腔疾患	4.4		4	眼の疾病・異常	6.6
	5	アトピー性皮膚炎	2.4		5	せき柱・胸部・四肢の状態	5.6
	6	歯列・咬合	1.8		6	歯列・咬合	5.3
	7	眼の疾病・異常	1.6		7	歯肉の状態	4.6
	8	歯・口腔のその他の疾病・異常	1.3		7	心電図異常	4.6
	9	その他の疾病・異常	1.2		9	歯垢の状態	4.1
	10	その他の皮膚疾患	0.9		10	耳疾患	4.0
小学校	1	むし歯(う歯)	45.1	高等学校	1	裸眼視力1.0未満の者	X
	2	裸眼視力1.0未満の者	31.9		2	むし歯(う歯)	43.7
	3	鼻・副鼻腔疾患	11.8		3	鼻・副鼻腔疾患	9.3
	4	眼の疾病・異常	6.5		4	歯肉の状態	6.7
	4	歯列・咬合	4.9		5	歯垢の状態	6.4
	6	歯・口腔のその他の疾病・異常	4.6		6	歯列・咬合	6.2
	7	耳疾患	4.3		7	眼の疾病・異常	5.4
	8	アトピー性皮膚炎	3.2		8	せき柱・胸部・四肢の状態	3.6
	9	せき柱・胸部・四肢の状態	3.1		9	蛋白検出の者	3.5
	10	ぜん息	2.9		10	心電図異常	2.9

(注1) 学校における健康診断の結果、疾病・異常有の項目を学校種別毎に割合の高い順に上位から10位まで表示している。

(注2) サンプル数が少ないものはXで表示している。

## イ 主な疾病・異常等の推移

「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、平成 18 年度以降では、全て数値が公表されている小学校については過去最高となっている。

「むし歯(う歯)」の者の割合は減少傾向が続いており、平成 18 年度以降では、小学校及び高等学校で過去最低となっている。

「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合は、他の学校段階と比較すると、小学校は高く推移している。

「アトピー性皮膚炎」及び「ぜん息」の者の割合は、あまり差が見られない。(表 4)

## ウ 主な疾病・異常等の全国値との比較

平成 28 年度の「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、公表されている幼稚園、小学校及び中学校のうち、小学校及び中学校で全国値を上回っている。

「むし歯(う歯)」の者の割合は、平成 18 年度から全ての学校段階において全国値を下回っている。

「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合は、幼稚園で全国値を上回っている。

「アトピー性皮膚炎」の者の割合は、全国値とあまり差が見られない。

「ぜん息」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国値を下回っている。(表 4)

表 4 学校種別 主な疾病・異常等の推移

(単位:%)

区 分		裸眼視力 1.0未満の者		むし歯(う歯)		鼻・副鼻腔疾患		アトピー性皮膚炎		ぜん息	
		広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国
幼 稚 園	平成18年度	X	24.07	39.1	55.20	8.2	3.40	4.0	3.77	1.9	2.36
	23	X	25.48	41.8	42.95	5.5	4.37	3.1	2.87	3.0	2.79
	24	X	27.52	37.6	42.86	4.8	3.50	3.5	2.88	1.3	2.33
	25	X	24.53	34.0	39.51	7.0	3.44	3.7	2.39	3.3	2.13
	26	18.3	26.53	31.9	38.46	8.9	3.13	3.2	2.37	2.1	1.85
	27	28.9	26.82	28.8	36.23	5.8	3.57	3.2	2.52	0.4	2.14
	28	23.8	27.94	29.2	35.64	4.4	3.58	2.4	2.39	0.4	2.30
小 学 校	平成18年度	27.2	28.36	63.7	67.80	12.3	11.94	4.6	3.62	3.2	3.74
	23	26.7	29.91	50.6	57.20	12.4	12.50	3.6	3.30	3.7	4.34
	24	27.9	30.68	51.7	55.76	12.2	12.19	3.9	3.25	3.3	4.22
	25	27.7	30.52	51.1	54.14	14.0	12.07	2.9	3.06	3.2	4.15
	26	26.7	30.16	49.7	52.54	12.8	12.31	3.7	3.22	3.4	3.88
	27	30.8	30.97	48.8	50.76	9.5	11.91	4.3	3.52	3.6	3.95
	28	31.9	31.46	45.1	48.89	11.8	12.91	3.2	3.18	2.9	3.69
中 学 校	平成18年度	X	50.13	52.8	59.66	9.7	10.67	3.1	2.76	2.3	2.95
	23	X	51.59	40.2	48.31	8.0	11.75	2.6	2.42	1.7	2.83
	24	51.2	54.38	36.3	45.67	9.8	11.39	3.1	2.47	2.6	2.95
	25	X	52.79	38.3	44.59	9.3	11.11	3.2	2.48	2.2	3.22
	26	X	53.04	35.0	42.37	10.7	11.21	3.6	2.52	3.6	3.03
	27	54.4	54.05	31.5	40.49	10.3	10.61	2.9	2.72	2.7	3.00
	28	55.1	54.63	33.0	37.49	9.5	11.52	2.6	2.65	1.5	2.90
高 等 学 校	平成18年度	X	58.65	65.2	70.06	8.3	8.18	2.4	2.25	1.2	1.71
	23	X	60.93	52.4	58.46	9.4	8.81	2.8	2.06	1.2	1.94
	24	53.1	64.47	49.7	57.60	8.4	8.63	1.5	2.07	1.1	1.91
	25	62.3	65.84	48.8	55.12	9.5	8.74	2.3	2.14	1.2	1.90
	26	41.3	62.89	51.0	53.08	6.1	8.72	2.3	2.14	0.8	1.93
	27	X	63.79	49.9	52.49	9.3	7.34	2.1	2.05	1.1	1.93
	28	X	65.99	43.7	49.18	9.3	9.41	2.7	2.32	1.2	1.91

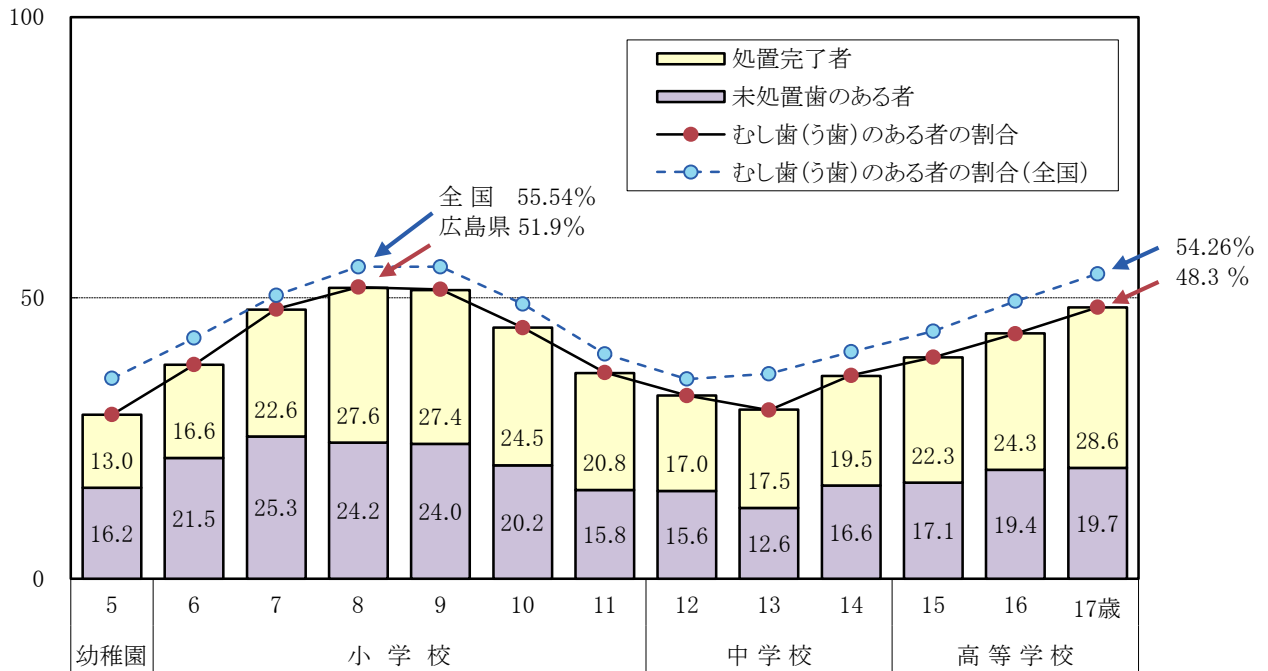
(注) 県の数値は、小数点以下第 1 位までの表章としている。

## エ むし歯(う歯)の状況

「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると、8歳が51.9%と最も高くなっている。また、全ての年齢において、全国値を下回った。処置完了者の割合は、8歳から17歳について未処置歯のある者の割合を上回っている。(図1)

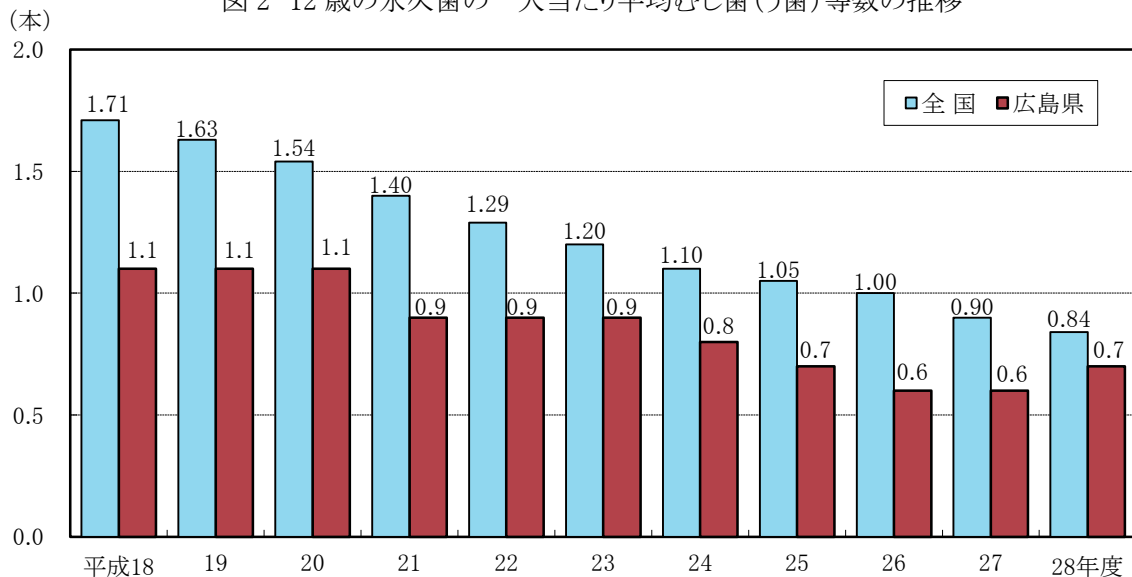
中学校1年(12歳)のみを調査対象としている、永久歯の1人当たりの平均むし歯等数(喪失歯及び処置歯数を含む。)の平成18年度以降の推移をみると、全国では毎年度減少しており、広島県でもこれまでは、前年度と同程度若しくは減少していたが、28年度は前年度を上回った。連続して全国値を下回っているものの、全国との差が縮小してきている。(図2)

図1 年齢別 むし歯(う歯)の者の割合等



(注)10歳から12歳において割合が減少するのは、乳歯が生え替わることが影響していると考えられる。

図2 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数の推移



この報告書の内容は、文部科学省及び広島県のホームページでも提供しています。

「学校保健統計調査」及び「広島県学校保健統計調査」で検索してください。

文部科学省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm)

広島県 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/toukei/gakkohokentoukeityousa.html>

問い合わせ先 広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ 電話 082-513-2534(ダイヤルイン)



政府統計